

## はしがき

本報告書は、当研究所が令和2～4年度外務省外交・安全保障調査研究事業（発展型総合事業）「国際秩序の転換期における日本の秩序形成戦略—台頭する中国と日米欧の新たな協調」のサブ・プロジェクトの一つとして実施してきた研究プロジェクト「『新時代』中国の動勢と国際秩序の変容」における1年目の研究成果をとりまとめたものです。

米中の対立と戦略的競争は、軍事・安全保障から先端技術、サプライチェーンの支配、新型コロナ対応をめぐるナラティブに至るまで、あらゆる分野で一層激化し、ルールに基づく国際秩序は一層激しい試練に直面しています。

国際社会が急速に拡大した新型コロナウイルス感染への対応に苦しむ中で、中国は法の支配や領土問題に関する一層強権的・高圧的な内外政策や、「一帯一路」などの従来の経済構想に加えてコロナ対応を通じても影響力の拡大の動きを進め、米国がこれに対応する構図が深まり、インド太平洋は分断と競争の大洋となる様相を深めています。

本プロジェクトは、内政と国際関係の両側面から、今日の習近平政権下の中国の現状と課題を分析し、今後を展望しようとするものです。ここに収められた各論文は、3年プロジェクトの初年度の研究の成果です。

ここに表明されている見解はすべて個人のものであり、当研究所の意見を代表するものではありません。この研究成果がわが国の外交実践に多く寄与することを心より期待します。本報告書に対する忌憚なきご意見、ご批判をいただければ幸いです。

最後に、本研究に積極的に取り組まれ、報告書の作成に尽力いただいた執筆者各位、ならびにその過程でご協力いただいた関係各位に対し改めて深甚なる謝意を表します。

令和3年3月

公益財団法人 日本国際問題研究所  
理事長 佐々江 賢一郎

## 研究体制

### 『新時代』中国の動勢と国際秩序の変容」研究会

主査：	高原 明生	東京大学教授／日本国際問題研究所上席客員研究員
顧問：	高木誠一郎	日本国際問題研究所研究顧問
委員：	青山 瑠妙	早稲田大学教授
	伊藤 亜聖	東京大学社会科学研究所比較現代経済部門准教授
	熊倉 潤	日本貿易振興機構アジア経済研究所研究員
	倉田 秀也	防衛大学校教授／日本国際問題研究所客員研究員
	津上 俊哉	津上工作室代表／日本国際問題研究所客員研究員
	内藤 寛子	日本貿易振興機構アジア経済研究所研究員
	舟津奈緒子	日本国際問題研究所研究員
	松田 康博	東京大学東洋文化研究所教授
委員兼幹事：	市川とみ子	日本国際問題研究所所長
	永瀬 賢介	日本国際問題研究所研究調整部長
	李 昊	日本国際問題研究所研究員
	中山 玲子	日本国際問題研究所研究助手

## 目 次

第 1 章	2020 年の習近平政権の課題とその克服	高原 明生……………1
第 2 章	習近平政権における「政治安全」と国内安全保障法制	松田 康博……………7
第 3 章	習近平政権における「党と国家機構改革」 ——党政分離の終焉——	李 昊…………… 13
第 4 章	最近の中国経済情勢 ——アフター・コロナの中国経済と米中関係の行方——	津上 俊哉………… 19
第 5 章	中国の特色あるデジタル化	伊藤 亜聖………… 27
第 6 章	習近平政権下の司法改革	内藤 寛子………… 35
第 7 章	習近平政権下の国民統合 ——新疆、香港政策を中心に——	熊倉 潤…………… 43
第 8 章	米国対中「関与」政策の進展 ——制度化からトランプ政権への展開を中心に——	高木 誠一郎… 49
第 9 章	アメリカの対中政策からみる米中対立 ——トランプ政権からバイデン政権へ——	舟津 奈緒子… 55
第 10 章	国内政治と連動する中国のアジア外交	青山 瑠妙………… 59
第 11 章	「アド・ホックな米中協調」と北朝鮮 ——人権問題と「適正」な米中関係——	倉田 秀也………… 67